

「エーエ、あんぢよう断つてんかいな」

「仲々聞いてくれはりまへん、助太刀は幾何萬人あつても死人の山築くと……モン貴方、何處へ行きなはるねん」

「一寸、お便所へ」

「不可んく、貴方逃げたら私の命が無い、便所へ附いて行きます、まだ後に二人残つて居る、難儀やなア、皆一緒に來とくなはれ」

「私、便所しとうない」

「マア、仕とうなうても一緒に行つて貰はんと困ります」

「甚い災難や」

四人連れで便所へ行きまして、座敷へ戻ると寝る事も出來ず、四人が蛭に鹽を掛けた様に悄れて居ります、そうなるとお侍と云ふものは魂の置き處が違ひます、枕に就きますと白河夜船の高軒でグーとお寢みになりました……ガラリと夜が明けますと嗽ひ手洗で身を清め、神佛に禮拜を致しますと御飯を召上りまして、身捌へが出來ますと、

「伊八……伊八……」

「あの聲の底まで答へる皆逃げたらあきまへんで、其處にヂツと居とくなはれや、茂助どん一寸

番を仕て居てや此の人を逃がさん様に……へイ旦那さんお呼びで」

「伊八、昨夜は厄介を掛け相濟まん」

「どう致しまして」

「是れは宿料ぢや、是れは僅少なれど茶代ぢや取つておけ」

「有難うさんで」

「縁があれば重ねて泊る、縁が無ければ是れ限りぢやぞ、靜にいたせ」

「有難うさんで御座ります……アノ旦那さん、一寸お待ちを」

「何ぢや」

「如何致したもので御座ります」

「何が如何致したのぢや」

「お預り申しました物で御座ります」

「拙者は何も預けた覺へは無」

「昨夜おつしやつた三人で、出發したもので御座りますが、たゞしは泊置いたもので御座りますか」

「出發したのか、泊置いたものか、とは」

「日本橋の合討ちの一件を」